

三里塚・ジェット

の大爆発で軍事大化攻撃を破れ！

日刊 勤労千葉

80.8.21
No. 513

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆）三三三・二七二〇七

全斗煥と反動鈴木内閣による 美中大氏らへの死刑攻撃を許すな！

ハオ五一一号（8/19付）より続く
「自衛隊があかつき大演習」（8/15）「新艦建造、二倍に——来年度防衛予算要求」（8/16）「緊急発進機に初めて攻撃用ミサイルを搭載」（8/18）「来月より護衛艦に魚雷を積載」（8/19）……等々。今や、反動鈴木内閣は一切の力を投入して、戦時にむか、この体制づくり——軍事大國化攻撃へと一挙にだれ込んでいっていることは、もはや明白である。

侵略・軍大化のために、つぎつぎと生活・権利を破壊

オ二にはつきりさせねばならないことは、この間「日刊」等で暴露してきたように、反動鈴木内閣が極めて露骨に、南朝鮮への一層の経済的・政治的・軍事的侵略の体制を強め、血まみれ全斗煥との反動的癒着を深めていることである。

反動鈴木内閣がとっている攻撃のオ三の軸は、軍事大國化のためには増税・公共料金値上げ、福祉切り捨ては当然と居直り、労働者人民に合理化、低賃金の生活破壊を強制し、労働運動弾圧、小選挙区制——自民独裁体制へとつき進んでいることである。

「国鉄三十五万人体制」攻撃とは、日本労働運動の戦闘的骨髄たる国鉄労働運動を暴力的に解体し、「本部」反動分子などの裏切りまで総動員して骨抜き御用組合づくりを狙うという、軍事大國化——侵略翼賛体制づくりの大路線に沿った重大な攻撃なのである。オ四に重要なことは、反動鈴木内閣は、この軍事大國化攻撃の突破口を「三里塚二期攻撃と関西新空港建設を軸とするオ四次航空整備計画の達成」に絞ってきている点である。激化する国際経済競争に勝ち、目前の重需産業を

うちたてるために、日帝は今最弱の環——航空宇宙産業を軸とした最先端の科学技術産業部門での決定的打ちあぐれを強引に突破せんともがいている。そのためには、「国策」に盾つく闘いの若「三里塚」など叩きつぶさねばならぬ。国鉄三十五万人体制に対決し、燃料輸送のアキレス腱をおびやかし続ける勤労千葉と闘う住民・組合の存在はまさに、目の上のタンコブとしてなりふりかまわぬ攻撃で叩きつぶさんとしているのである。

軍事大國化攻撃の中心柱としての 三里塚・関西新空港の攻撃

三里塚闘争に敵対し、「再建」合理化推進——国鉄当局の武装親衛隊になり下がった勤労「本部」革マル分子を一掃しよう、勤労大改革かちとり、八〇年秋へと暴進しよう、日帝の南朝鮮侵略——軍事大國化攻撃粉碎、金大中氏らへの死刑攻撃粉碎、55・10——国鉄三十五万人体制合理化粉碎、労農連帯の旗のもと、ジェット燃料貨車輸送阻止、二期攻撃粉碎、

